

# 奥田和重名誉教授記念号及び 西山茂名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 和田 健 夫

奥田和重名誉教授記念号及び西山茂名誉教授記念号の刊行にあたり、ご挨拶申し上げます。

奥田和重先生は、1976年大阪工業大学工学部をご卒業後、大阪府立大学大学院工学研究科に進まれ（工学修士）、1982年4月に小樽商科大学商学部管理科学科（1991年10月からは社会情報学科）助手として本学に赴任されました。1988年10月に同助教授、1995年10月に同教授となり、2004年4月からは、新たに設置された大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻（専門職大学院）に移られ、2016年3月に定年退職されました。退職後の2年間の特任教授の期間を含め、34年の長きにわたって本学の教育研究に多大の貢献をされました。

1997年4月から2000年3月まで社会情報学科の学科長を、2007年4月から2014年3月まで副学長を務められるなど、大学運営の面でもご尽力頂きました。とくに、副学長の時は、法人化直後の多難な時期で、先生は、評価担当として、本学の評価システムの確立に務められました。その時、私も理事・副学長の職にあって奥田先生と共に仕事をさせて頂きました。細かな作業を黙々とこなす先生の姿が今でも記憶に残っています。

奥田先生の専攻分野は、生産システム論・生産管理論です。とりわけ、分権的生産システムに関する研究の分野で多くの業績を挙げられました。たとえば、「資源配分型2階層分権的システムの解析」日本経営工学会誌32巻5号1981年、（人見勝人氏との共著）、「大規模システムの資源配分型統合法について」商学討究35巻2・3号1985年、「分権的生産システムにおける資源配分による統合

問題の解析」システムと制御29巻9号1987年、「分権的生産システムの最適化に関する研究(第1報 非協力ゲームによる単一期間生産計画問題の最適化)」日本機械学会論文集C編65巻633号1999年、Hierarchical structure in manufacturing systems-a literature survey, International Journal of Manufacturing Technology Management, vol3 No.3, 2001などがあります。これらの研究により、1993年に京都大学から博士(工学)の学位を授与されました。その後も「大規模複雑なシステムのゲーム理論による考察」商学討究52巻4号2002年、「ダイナミック・ゲーム理論による企業間連携モデルの解析」同66巻1号2015年などの研究が続けられています。さらに関心は循環型産業システムにも広がり、この分野では、1996年から1999年にかけて科学技術研究補助金の採択を受け、研究成果を「循環型産業システムに関する研究-リサイクル・システムと経済的手段」同50巻2・3号2000年、「循環型産業システムの経済的手段」オフィス・オートメーション21(2)2000年として公表されました。

先生は、研究成果を、教科書・概説書の執筆、講演、審議会・委員会等の委員を通じて広く社会に還元することにも積極的に取り組まれました。教科書・概説書には、『経営科学入門』ムイスリ出版2001年、人見勝人ほか編著『コンピュータによる設計・生産・管理-CAD・CAM・CAP』共立出版1993年(第2章52-62項、第4章161-191を担当)、小樽商科大学ビジネス・スクール編『MBAのためのERP-ケーススタディ:ビジネスプロセス構築』同文館2007年(第2章を担当)があります。

教育の面では、学部所属時代は、学部では、「計画数学Ⅰ、Ⅱ」、「計画科学」、「学問原論」、「社会情報特講Ⅰ」、「オペレーションズ・リサーチ」、「情報処理入門」、「管理科学概論」等の講義と「研究指導」を、大学院(経営管理専攻(2014年からは現代商学専攻))では、「管理科学特論Ⅰ、Ⅱ」、「社会情報特別研究」を担当されました。大学院では7名(前期課程5名、後期課程2名)の学生が先生の指導を受けました。

学部の研究指導(ゼミナール)では、「情報通信技術の活用事例」、「生産システム」、「オペレーションズ・リサーチ」などのテーマが取り上げられまし

た。ゼミの様子については、学生の証言があります（「奥田和重ゼミナール」小樽商科大学同窓会誌「緑丘」108号108頁）。そこからは、穏やかで優しい先生の熱のこもった指導のもとで、彼らが自ら学び成長する姿が覗えます。14年間で138名の学生が育っていきました。

アントレプレナーシップ専攻（専門職大学院）では、「PCリテラシー」、「情報の処理と活用（情報活用とビジネスライティング）」、「ビジネスプロセス構築（組織運営のためのシステム構築法）」、「生産管理」、「ビジネスワークショップⅠ（プロジェクト演習）」、「ビジネスワークショップⅡ（リサーチワークショップ）」を担当されました。

教育上の貢献で忘れてならないのは、先生が学部所属時代に関わった教育課程改革、FD活動です。本学は、2001年（平成13年）に学部の教育課程の大幅な改革を行いました。「平成13年度カリ」と呼ばれたこの教育課程は、その後何度か改正されましたが、基本は変わらず学部教育の基盤となっています。先生は、当時、教育課程改善委員会（2004年4月からは教育開発センター）副委員長として、山本眞樹夫委員長を補佐し、改革を主導されました。私が委員長を継いだ後も、副委員長の職に留まり、新しい教育課程の推進、学部の将来構想にご尽力されるとともに、その頃から全国の大学で動き始めたFDを、教育開発センターFD専門部会長として、本学で普及させる活動の中心的役割を果たされたのです。

2018年2月27日に奥田先生の最終講義が札幌サテライトで行われました。テーマは「商学と工学のはざままで」でした。先生は、工学部の学部・大学院で技術色の強い生産システム工学を専攻されましたが、本学に就職してからは、生産技術情報分野の研究を控え、オペレーションズ・リサーチに近い生産管理情報分野の研究に力を入れたことが述べられました。講義では、本学では控えてきた生産技術情報分野の製品計画、工程計画、レイアウト計画を紹介し、特に工程計画を構成する工程設計と作業設計が原価管理の基本的なデータになっていることを説明されました。最近の話題として生産システムのIOT化の事例としてサイバー・フィジカル・システムを取り上げられ、ドイツのIndustry4.0

など先進的な取り組みを紹介するとともに日本における取り組みも紹介されました。海外の先進的な取り組みに対して日本が大きく後れをとっていることを指摘されました。

西山茂先生は、1975年3月慶応義塾大学経済学部をご卒業後、同大学大学院経済学研究科修士・博士課程を経て、1978年4月に経済企画庁(現在の内閣府)に入庁、経済統計の専門家として、「経済白書」作成やGDP推計などのお仕事をされました。1989年4月から3年間大阪大学社会経済研究所助教授を務められた後、1992年4月に小樽商科大学商学部経済学科の助教授に就任、1997年10月に教授になられ、2004年4月からは新設された大学院商科学研究科アントレプレナーシップ(専門職大学院)に移籍、2016年3月に定年退職されました。定年退職後2年間の特任教授の期間を含め26年の長きにわたり、本学の教育研究に多大の貢献をなされました。

1999年4月から2000年3月まで経済学科学科長を務められるなど、大学運営にもご尽力頂きました。私が教育担当副学長の時、学部教務委員会で西山先生と席を同じくしたことがあります。先生は委員長として、理路整然とした采配ぶりで、学内でも最も仕事量の多い委員会を見事に取り仕切っておられました。

西山先生の専攻分野は、計量経済学、統計学です。とりわけ、消費、貯蓄行動の分析の研究において数多くの業績を挙げられました。たとえば、家計消費に関するマクロデータとミクロデータとの乖離について検討した”Consistency between Macro- and Micro-Datasets in the Japanese Household Sector”(牧厚志氏と共著)1993や”Implication and Quality Characteristics of the Family Income and Expenditure Survey of Japan, 1984-88,”1994、さらに”An Analysis of Underreporting for Micro-Data Sets: The Misreporting Model or Double Hurdle Model”(牧厚志氏との共著)1996、景気判断技術をテーマとした「レジームスイッチングと景気動向指数の有効性」2009などがあります。これらの成果は、国際学会等でも報告されました。たとえば、”A Triple Hurdle Model: An Extension of Deaton and Irish’s Misreporting Model”(牧厚志氏との共同研究)が、1996年にノルウェー・リレハメルで開催

された第24回国際所得・国富学会で発表されています。

先生は、統計学の知見を、教科書・概説書の執筆、講演、各種審議会・委員会活動等を通じて広く社会に還元することにも積極的に取り組まれました。教科書・概説書には、『楽しい統計学セミナー』（同文館）、『基礎の徹底 統計学』（エコノミスト社）、『経済経営のための統計学』（共著、有斐閣）、『MBAのためのビジネスエコノミクス』（共著、同文館）などがあります。

教育の面では、西山先生は、学部所属時代、学部では、「数理統計学」、「統計学」の講義と「研究指導」を、大学院（経営管理専攻。2014年からは現代商学専攻）では「経済データ解析」、「応用計量経済学」を担当されました。

学部の研究指導（ゼミナール）のテーマは、「データを用いた実証的な経済分析手法の習得」でした。課題やレポートが多い厳しいゼミでしたが、学生は、調べ、意見を主張し、データを通じて現実を見ることの面白さに目を開かされました（学園だより131号2002年）。13年間で77名の学生が育っていきました。

アントレプレナーシップ専攻（専門職大学院）では、「統計分析の基本（調査研究とデータ解析の技法）」、「経済学・分析手法Ⅱ（ビジネス統計分析）」、「将来予測の技術」、「ビジネスエコノミクス」、「ビジネスワークショップⅠ」、「ビジネスワークショップⅡ」を担当されました。

両先生の長きにわたる本学へのご貢献に改めて感謝申し上げるとともに、一層のご活躍を祈念しております。